

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 29 日現在

機関番号：14202

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593292

研究課題名(和文) 妊婦と実母の2世代を対象にした育児支援プログラムの開発 縦断的介入による評価

研究課題名(英文) Development of a childcare support program for two generations, gravidas and their real mothers: Evaluation by a longitudinal intervention research

研究代表者

岡山 久代 (OKAYAMA, Hisayo)

滋賀医科大学・医学部・准教授

研究者番号：90335050

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：初妊婦と実母の2世代を対象にした育児支援プログラムの開発を目指して、両者に対して妊娠末期から産後にかけて縦断的デザインによる介入と調査を行った。産後1ヶ月の抑うつ影響要因は、妊婦自身の妊娠末期の「実母からの自立性」、産後1ヶ月の「適応」、「不安傾向」、「疲労」であった。また実母の要因としては、産後1ヶ月の時点での実母自身の「抑うつ」、「疲労」であった。産後うつ要因は、妊婦自身の要因のみではなく、実母の健康状態も関連することが明らかになった。初妊婦と実母に対する妊娠期からのメンタルヘルスや孫育てについての情報提供の必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：In order to develop a childcare support program for two generations; primigravidas and their real mothers, a longitudinal intervention research was conducted for Japanese primigravidas and their real mothers at third trimester of pregnancy period and one month after the delivery. As a result of the logistic regression, significant factors on postnatal severe depression are "Independence from Mother" at pregnancy period, and "Adaptation", "Tension-Anxiety", and "Fatigue" at postnatal period for the primigravidas. On the other hand, "Depression-Dejection" and "Fatigue" of the mothers at postnatal period are also significant factors. From these results, it is indicated that postnatal depression is influenced with not only primigravidas' own but their mothers' health status, and that information dissemination about mental health and grandchild care at pregnant period to primigravidas and their real mothers is required.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学

キーワード：初妊婦 実母 育児支援 母娘関係 産後うつ 孫育て

## 1. 研究開始当初の背景

女性は幼少期から実母との関係性の影響を受けながら生涯発達するため、両者の関係性が重要である(北村, 2008)。特に近年の少子化、妊娠先行婚や子どもの虐待の増加に伴い、実母(祖母)による子育てサポートのニーズが高まっている(岡山, 2010)。しかしその一方で、実母の過剰なサポート、育児疲労、両者の関係性の葛藤などの弊害も問題となっている(藤岡, 2010)。

母・娘関係の研究は、女性の生涯発達の視点から心理学や社会学の研究者によって行われているが、母親への移行過程というライフステージに焦点を当てた研究は少ない。また、ニーズの高まりから日本助産師会が「孫育て講座」プログラムの教材を開発し、助産師指導者育成事業を展開しているが(2010)、祖父母世代も多忙であるため、講座への参加者は限定されている現状がある。

以上のことから、我々は女性の生涯発達を支援するための妊婦と実母との関係性に関する研究が重要と考え、一連の研究から看護への示唆を提言してきた。現在の課題は、妊婦と実母の2世代を対象にした育児支援プログラムを開発し、その効果を明らかにすることである。

## 2. 研究の目的

- (1) 妊婦と実母を対象とした介入(個別指導)と面接を行い、介入内容と方法を評価する。評価に基づき介入プロトコルを修正する。
- (2) 縦断的デザインによる介入研究(母親教室・助産外来での指導)を行い、その効果を評価する。また、妊娠期から産後にかけての親子関係の変化、産後うつとの関係性について分析する。
- (3) 介入の評価を元に、臨床で活用可能な育児支援プログラムを作成する。

## 3. 研究の方法

### (1) 妊婦と実母を対象とした介入(個別指導)と面接 介入プロトコル作成

- 対象とリクルート方法
  - ・ 産科的異常・合併症が無い初妊婦と実母 5 組。外来にて初妊婦に調査を依頼、同意を得た。その後実母の同意を得た。
- 介入時期・内容
  - ・ 時期：妊娠後期に 30 分程度。
  - ・ 内容：テキスト「おまご BOOK」(日本助産師会)を用いた。周産期の母娘関係の変化、産後うつ、疲労、祖母の役割、育児等。

- 評価
  - ・ 質問紙：妊娠後期(指導の後)、産後 1 ヶ月、産後 2 ヶ月に実施した。
  - ・ 面接：産後 1 ヶ月に 30 分程度。個別指導で役に立った内容、不足した内容、方法等。
  - ・ 評価をふまえて、介入プロトコルを修正、オリジナルの資料を作成した。

### (2) 縦断的介入研究(母親教室での集団指導と助産外来での個別指導)

- A：対照群(介入無し)の実施
- 対象とリクルート方法
  - ・ 産科的異常・合併症が無い初妊婦と実母 80 組。母親教室にて初妊婦に調査を依頼、同意を得た。その後実母の同意を得た。
  - ・ 介入の特殊性から各群のブラインドは不可能であるため、各施設とも A B C 群の順に実施した。
- 介入内容：対照群のため、実施無し
- 評価：質問紙
  - ・ 妊娠後期：初妊婦は母親教室にて実施、実母へは郵送にて配布・回収した。
  - ・ 産後 1 ヶ月・産後 2 ヶ月：郵送にて配布・回収した。
  - ・ 母娘関係、抑うつ状態、疲労状態、サポート状況
- B：母親教室での集団指導群の実施
- 対象とリクルート方法
  - ・ 各群とも産科的異常・合併症が無い初妊婦と実母 80 組。外来・母親教室予約時に初妊婦へ調査を依頼、同意を得る。その後実母の同意を得た。
- 介入時期・方法・内容
  - ・ 時期：妊娠後期の母親教室開催日
  - ・ 母親教室にて、初妊婦に対してテキスト及びオリジナル資料を用いた指導を行った。
  - ・ 周産期の母娘関係の変化、産後うつ、疲労、祖母の役割、育児等。
  - ・ 実母へはテキスト・資料・質問紙を送付した。
- 評価：質問紙
  - ・ A：対照群と同様
- C：助産外来での個別指導群の実施
- 対象とリクルート方法
  - ・ 各群とも産科的異常・合併症が無い初妊婦と実母 30 組。助産外来時に初妊婦へ調査を依頼、同意を得た。その後実母の同意を得た。
- 介入時期・方法・内容
  - ・ 時期：妊娠後期の助産外来日に初妊婦に対してテキスト及びオリジナル資料を用いた指導を行った。

- ・ 内容は B：集団指導群と同様。
- ・ 実母へはテキスト・資料を送付。
- 評価：質問紙
  - ・ A：対照群と同様

### (3) 倫理的配慮

調査に先立ち滋賀医科大学倫理委員会の承認を得た。初妊婦に対しては、調査の主旨、調査協力の有無に関わらず対象者に利益・不利益が生じないこと、個人が特定されないようにプライバシーおよびデータの保護を徹底すること、得られたデータは、本調査の目的のみに使用すること、中断が可能であることを説明し、同意を得た。実母には調査依頼文にて説明し、同意を得た。

## 4. 研究成果

### (1) 妊婦と実母を対象とした介入

産科的異常・合併症が無い初妊婦と実母 5 組を対象とした。妊娠後期と産後 1 ヶ月に介入を実施した。内容は、母娘関係の変化、産後うつ、祖母の役割、サポート等であった。介入により、実母のサポート、産後うつに対する認識が高まり、介入の効果が示唆された。この結果をもとに「ママになる女性のメンタルヘルス」を作成した。

### (2) Mother-Primigravida Relationship Scale (MPRS:実母がとらえる初妊婦との関係性尺度) の開発

これまでのデータを元に実母がとらえる初妊婦との関係性を評価する尺度を開発した。

348 名のデータ (回収率 85.7% , 有効回答率 89.7%) を分析対象とした。因子分析により「祖母役割への意欲」、「経験者としての娘への支援」、「娘の承認と関係性の再構築」、「母となる娘を支える意欲」の 4 下位尺度、24 項目が構成された。下位尺度の内的整合性による信頼性 ( $\alpha=0.73 \sim 0.80$ ) が確認された。下位尺度と、既存尺度である「娘との親密性」( $r=0.26 \sim 0.40$ ,  $p < 0.001$ ) および「娘への過剰な依存」( $r = -0.47 \sim -0.18$ ,  $p < 0.001 \sim 0.01$ ) との相関から、併存妥当性が確認された。これにより、初妊婦と実母の両者からみた親子関係の評価が可能となった。(第 52 回日本母性衛生学会にて報告)

### (3) 初妊婦がとらえる実母との関係性と実母がとらえる初妊婦との関係性の関連

これまでに得られた妊娠期の妊婦と実母のデータを接合し、初妊婦と実母との関係性

を分析した。

質問紙調査を実施した初妊婦 456 名のうち、434 名から有効回答が得られた (有効回答率 95.8%)。実母に対しては、453 名へ調査を依頼し、356 名から有効回答が得られた (回収率 78.6%)。ペアの有効データ 348 組 (初妊婦の有効回答率 76.3% , 実母の有効回答率 76.8%) を分析対象とした。調査内容は、初妊婦に対しては Primigravida-Mother Relationship Scale (PMRS: 初妊婦がとらえる実母との関係性尺度, 岡山ら, 2011)、実母に対しては MPRS とした。平均年齢は初妊婦 29.5 ( $\pm 4.6$ ) 歳、実母 57.3 ( $\pm 5.9$ ) 歳、初妊婦の平均妊娠週数は 22.9 ( $\pm 8.6$ ) 週であった。また妊娠先行婚は 82 名 (23.6%)、産前産後の里帰りもしくは実母の手伝いを予定している者は 241 名 (68.3%) であった。MPRS の「経験者としての娘への支援」と、PMRS の「実母からのサポート」、「実母との親密性」、「実母に対する肯定感」、「実母を介した母親像モデルの探求」、および「実母をモデルとした妊娠・分娩・育児準備」との有意な相関 ( $r=0.25 \sim 0.41$ ,  $p < 0.001$ ) が示された。また、MPRS の「娘の承認と関係性の再構築」と、PMRS の「実母に対する肯定感」、および「実母をモデルとした妊娠・分娩・育児準備」との有意な相関 ( $r=0.22 \sim 0.23$ ,  $p < 0.001$ ) が示された。妊娠中の両者の関係性をポジティブに変化させるには、実母のサポートが重要である。また、実母が娘を母親として承認し、関係性の再構築をすることも、両者の関係性の発達の移行において重要な要因であることが明らかになった。(第 26 回日本助産学会学術集会にて報告)

### (4) 妊娠中の実母との関係性と抑うつとの関係性 - 妊娠中の抑うつ High 群と Low 群による比較 -

これまでに得られた妊娠期の妊婦のみのデータを接合し、親子関係と抑うつ状態との関連性を分析した。

first stage (~15 weeks) 131 名, second stage (16 ~ 27 weeks) 134 名, last stage (28 ~ 40 weeks) 340 名を対象とした。調査内容は、Japanese version Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS, 岡野ら, 1996) と、PMRS とした。EPDS は、日本におけるカットオフポイント 8/9 を用いて、8 点以下を Low 群、9 点以上を High 群とした。各時期の EPDS の High 群は、first stage が 19 名 (14.5%)、second stage が 22 名 (16.4%)、last stage が 56 名 (16.5%) であった。High 群と Low 群で PMRS の subscales のスコアを比較した結果、first stage と last stage では、High 群は、Low 群よりも「妊娠期適応」が有意に低いことが示された ( $p < 0.001$ )。second stage では、「妊娠期適応」( $p < 0.001$ ) に加えて、「実母をモデルとした妊娠・分娩・

育児準備」も有意に低いことが示された ( $p < 0.05$ )。妊娠中に抑うつが高い初妊婦に対しては、妊娠に適応できるように初期からメンタルヘルスケアが必要である。また、出産や育児の準備を促すためには、実母がサポートすることやロールモデルになることも重要であることが示唆された。(International Federation of Gynecology and Obstetrics World Congress, 2012 にて報告)

#### (5) 妊娠末期から産後 2 ヶ月の初妊婦と実母との関係性の变化

縦断的介入研究のうち、A：対照群のデータを用いて、妊娠末期から産後 2 ヶ月の初妊婦と実母との関係性の变化を分析した。

初妊婦(平均年齢  $31.0 \pm 4.2$  歳)と実母( $58.6 \pm 5.1$  歳)97 組から 3 回の調査で有効回答が得られ、分析対象とした。調査内容は、初妊婦には、実母との関係性を評価する PMRS、実母には、娘との関係性を評価する MPRS とした。分析は、反復測定による分散分析と多重比較を行った。初妊婦がとらえる「実母からのサポート」は、産後 1 ヶ月に最も高くなることが示された ( $p < 0.001$ )。また「実母に対する肯定感」と「実母からの自立性」は、妊娠末期よりも産後 2 ヶ月の方が有意に高まることが示された ( $p < 0.01 \sim 0.05$ )。一方、実母がとらえる「娘の承認と関係性の再構築」は、妊娠末期よりも産後 1 ヶ月・2 ヶ月の方が有意に高まることが示された ( $p < 0.001$ )。出産を契機に両者の関係性が変化することが示唆された。(第 53 回日本母性衛生学会総会・学術集会にて報告)

#### (6) 妊婦と実母の親子関係と産後うつとの関連性

縦断的介入研究のうち、A：対照群と B：集団指導群の初妊婦と実母のデータを用いて、親子関係と産後うつとの関連性を分析した。

167 組の妊婦と実母を対象とし、妊娠末期と産後 1 ヶ月で調査をした。調査内容は EPDS、PMRS、Short-Form Profile Of Mood States (SF-POMS, 横山ら, 2005) とした。EPDS は日本におけるカットオフポイント 8/9 を用いて、9 点以上を産後うつ高得点群と分類した。産後うつの高得点群は妊娠末期で 16 人 (9.6%)、産後 1 ヶ月で 56 名 (20.8%) であった。産後うつの影響要因は、妊娠期の「実母からの自立性」(odds ratio (OR) 1.416, 95% confidence interval (CI) 1.072-1.870,  $p=0.014$ )、産後の「適応」(OR 0.67, CI 0.495-0.913,  $p=0.011$ )、「不安傾向」(OR 1.148, CI 1.066-1.236,  $p=0.000$ )、「疲労」(OR 1.182, CI 1.079-1.294,  $p=0.000$ ) で

あった。また実母の要因としては、産後 1 ヶ月の時点での実母自身の「抑うつ」(OR 1.232, CI 1.082-1.404,  $p=0.002$ )、「疲労」(OR 0.864, CI 0.767-0.974,  $p=0.017$ ) であった。産後うつの要因は、妊産婦自身の要因のみでは無く、実母の健康状態も関連することが明らかになった。(16th World Congress of Gynecological Endocrinology, 2014 にて報告)

#### (7) 縦断的介入研究 A:対照群、B:集団指導群、C:個別指導群のデータ分析

現在、すべての調査を終了し、A 群:97 組、B 群:70 組、C 群:25 組から、妊娠期・産後 1 ヶ月、産後 2 ヶ月のデータを得た。これらの比較結果、および妊婦と実母の 2 世代を対象にした育児支援プログラムの検討については、平成 26 年度以降に報告予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### 〔雑誌論文〕(計 2 件)

岡田真奈, 三宅由貴, 市岡美奈子, 初田聡美, 押村望, 正木紀代子, 岡山久代: 初産婦・経産婦における母親役割・分娩準備行動と出産満足および育児肯定感との関連性. 滋賀母性衛生学会誌, 査読有, 13(1), 2013, 17-22.

寺坂多栄子, 齋藤祥乃, 土川祥, 淵元純子, 正木紀代子, 岡山久代: 初めて妊娠した娘をもつ実母の孫育て講座に対するニーズ. 滋賀母性衛生学会誌, 査読有り, 11(1), 2011, 7-11.

##### 〔学会発表〕(計 6 件)

Hisayo Okayama, Kiyoko Masaki, Sachi Tuchikawa, Yoshino Saito, Taeko Terasaka, Hiromi Kuwata, Yoko Arai: Influence of relationship between primigravidas and their mothers and mood states on postnatal depression, 16th World Congress of Gynecological Endocrinology, 2014, Firenze, Italy.

岡山久代, 正木紀代子, 齋藤祥乃, 森みどり, 土川祥, 寺坂多栄子, 新井陽子: 妊娠末期から産後 2 ヶ月の初妊婦と実母との関係性の变化. 第 53 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2012, 福岡.

岡田真奈，三宅由貴，市岡美奈子，初田  
聡美，押村望，正木紀代子，岡山久代：  
妊娠中のセルフケア行動の高低による  
分娩満足度及び育児肯定感の比較 第 53  
回日本母性衛生学会総会・学術集会，  
2012，福岡．

Hisayo Okayama, Kiyoko Masaki,  
Sachi Tuchikawa, Yoshino Saito,  
Taeko Terasaka, Midori Mori, Hiromi  
Kuwata, Yoko Arai : Relationship  
between Depression in Primigravidas  
and their Mothers - Comparison by  
Severe and Mild Depression Groups - .  
International Federation of  
Gynecology and Obstetrics (FIGO)  
World Congress, 2012, Rome, Italy.

岡山久代，正木紀代子，齋藤祥乃，寺坂  
多栄子，森みどり，土川祥：初妊婦がと  
らえる実母との関係性と実母がとらえ  
る初妊婦との関係性の関連．第 26 回日  
本助産学会学術集会，2012，札幌．

岡山久代，正木紀代子，齋藤祥乃，寺坂  
多栄子，土川祥：実母がとらえる初妊婦  
との関係性尺度の開発と信頼性・妥当性  
の検討．第 52 回日本母性衛生学会総  
会・学術集会，2011，京都．

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6 . 研究組織

- (1) 研究代表者  
岡山 久代 (OKAYAMA Hisayo)  
滋賀医科大学・医学部・准教授  
研究者番号：90335050
- (2) 研究分担者  
桑田 弘美 (KUWATA Hiromi)  
滋賀医科大学・医学部・教授  
研究者番号：70324316  
  
新井 陽子 (ARAI Yoko)  
北里大学・看護学部・准教授  
研究者番号：90453505  
  
正木 紀代子 (MASAKI Kiyoko)  
滋賀医科大学・医学部・非常勤講師  
研究者番号：30433238  
  
土川 祥 (TUCHIKAWA Sachi)  
滋賀医科大学・医学部・助産師  
研究者番号：40534201
- (3) 連携研究者  
( )  
  
研究者番号：